

## 今や、住まいづくりの新常識!

# 「ユニバーサルデザイン」の家。

「ユニバーサルデザイン」…誰もが一度は聞いたことのある言葉です。公共施設などで取り入れられている仕様で、誰もが使いやすく、快適な空間を創るための考え方です。現在では個人住宅にもこの考え方が数多く取り入れられ、これからの住まいづくりの新常識となってきました。



## ユニバーサルデザインとは…?

「ユニバーサルデザイン」とは、アメリカのノースカロライナ州立大学教授のロナルド・メイス氏によって提唱された考え方です。

- ① 誰もが公平に使用できる
- ② 使いやすい仕様である
- ③ 使用方法が難しく無い
- ④ 必要な情報が簡単に入手できる
- ⑤ 危険を回避できている
- ⑥ 誰でも楽に使用できる
- ⑦ 使いやすい大きさと形である



という、7つの原則を基本としています。

また以前より「ユニバーサルデザイン」と同様に、住宅の「バリアフリー化」も推奨されてきました。

バリアフリーとは障害をもっている方や、高齢者などが暮らしやすいようバリア（障害）を取り除いた仕様ですが、「ユニバーサルデザイン」はすべての人が快適になるように考慮された仕様です。

## 住宅に導入するには…?



「ユニバーサルデザイン」は、そこに住む全員が快適に暮らせる住まいでなくてはなりません。居室の広さや配置、使いやす

さや、住宅設備機器や内外装も含まれます。子どもの成長やご自身の高齢化による体力の衰えなども考慮しておきましょう。

いずれにしても品質の高い住宅を建築するには、経験豊富な住宅メーカーの建築士と相談しながら住まいづくりを進めることを推奨します。



## ユニバーサルデザインの具体例

設計の段階でとくに考慮しておきたいのが「玄関」、「階段」、「浴室」、「トイレ」です。住まいのなかで最も事故が起きやすい場所だからです。障害がなくても、小さいお子様やお年寄りが安全に安心して暮らせる毎日を実現しましょう。

### 玄関

段差につまずいて転んだり、靴を履いたり、脱いだりしているときにバランスを崩して転ぶことは、若い人でもあります。とくに朝急いでいる時や慌てて帰宅した時に事故が起きるケースが多いようです。段差を無くすことはもちろんですが、手すりを付けたりするのも効果的です。

### 階段

古い日本家屋では急な勾配のうえに、踏み板の幅や長さも短く、それだけ転倒の危険性も大きくなっていました。勾配を緩やかに設計したり、階段の幅に余裕を持たせ、手すりを付けたりすればお年寄りから小さな子どもまで上り下りが安全になります。

### 浴室

お風呂での事故の多くは水に濡れた床で滑って転ぶケースです。最近では水に濡れても滑りにくい床や段差のない浴室が常識となっています。また、冬場ではヒートショックによる事故も起きています。浴室と脱衣室の温度の変化を小さくし、体に負担を掛けないことが大切です。

### トイレ

最近の住まいでは、トイレを1階と2階に設置している間取りが多く、夜暗い時でも階段を使わないで済むよう安全性に配慮されています。できれば、仮に車椅子でも使用できるトイレの広さを確保しておけば将来的にも安心です。

### その他

その他にも、様々な住宅設備機器にユニバーサルデザインは採用されています。例えば、キッチンではより使いやすいタッチレス水栓や自動昇降機能付きの収納棚、お風呂では手元で操作できるシャワー水栓、窓や扉なども開け閉めが簡単に指挟みを防止する機能をもったものもあります。スイッチひとつ取っても使いやすい大きさや形状を考えて作られています。



ママとパパとワタシにやさしい展示場。

山陽新聞住宅展示場

このようにユニバーサルデザインはもうすでに数多く取り入れられています。まずわが家の優先順位を考え、日々よく使うところから検討を始めてみましょう。